

6 「非認知能力」・「学習方略」等に関する分析について

ふくしま学力調査と同様の調査を、平成27年度から実施している埼玉県教育委員会では、平成31年度（令和元年度）までに得られた調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である慶應大学のSFC研究所へ委託し、次のようなことが分かってきました。

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる



（「令和元年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果概要」より）

福島県教育委員会では、このような先進的な知見を生かし、「非認知能力」や「学習方略」等の課題克服を通して、学力の向上に取り組んでいきます。

本章では、「非認知能力」や「学習方略」等について説明します。

「非認知能力」や「学習方略」等の調査結果の活用については、38ページで説明している**帳票40**を活用し、一人一人の「非認知能力」や「学習方略」等の課題を見だし、その克服を図ることに生かしてください。それが学力の向上につながると考えられます。

(1) 「非認知能力」について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では「**自制心**」「**自己効力感**」「**勤勉性**」「**やりぬく力**」の4種類について質問しています。

① 自制心

自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校6年生に質問

- ・ 授業で必要なものを忘れた
- ・ 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
- ・ 何からん暴なことを言った
- ・ つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- ・ 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- ・ 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- ・ きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- ・ イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした

② 自己効力感

自分はそれが実行できるという期待や自信

(例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校4年生と中学校1年生に質問

- ・ 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- ・ 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- ・ 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- ・ 学校でよい成績をとることができると思う
- ・ 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う

③ 勤勉性

やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校5年生に質問

- ・ うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ・ ものごとは楽しみながらがんばってやります
- ・ 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- ・ じゅ業中は自分がやっていることに集中します
- ・ 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします
- ・ ルールや順番は守ります
- ・ だれかと約束をしたら、それを守ります
- ・ 自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています
- ・ 何かを始めたら、ぜっ対終わらせなければいけません
- ・ 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- ・ 宿題を終わらせてから、遊びます
- ・ 気が散ってしまうことはあまりありません
- ・ やらないといけないことはきちんとやります

④ やりぬく力

自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって 成し遂げられる力

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 中学校2年生に質問

- ・ 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- ・ 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- ・ 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- ・ 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- ・ 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- ・ 何事にもよくがんばるほうです
- ・ いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- ・ 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- ・ 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- ・ 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- ・ 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- ・ まじめにコツコツとやるタイプです

(2)「学習方略」について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことで、ふくしま学力調査では「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「人的リソース方略」「認知的方略」「努力調整方略」の6つに分類しています。

① 柔軟的方略

自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動

(例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- ・ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- ・ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- ・ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略

計画的に学習に取り組む活動

(例) 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- ・ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- ・ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- ・ 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略

ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動

(例) 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- ・ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- ・ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- ・ 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④ 人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動

(例) 友達に勉強のやり方やわからないところを聞く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく
- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく
- ・ 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する
- ・ 勉強するときは、最後に友達と答え合わせをするようにする

※ 協働的な学びを促す際、児童生徒が安易に友人を頼る意識をもたないような工夫が必要です。

⑤ 認知的方略 より自分の理解度を深めるような学習活動

(例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- ・ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- ・ 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく
- ・ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑥ 努力調整方略 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

(例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- ・ 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- ・ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単なところだけ勉強する
- ・ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

(3) 「主体的・対話的で深い学び」について

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なります

あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- ・ 問題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと
- ・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと
- ・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと
- ・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合っ
て課題を解決すること
- ・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言
われること
- ・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんでき
たこと

(4) 帳票40を活用した分析について

帳票40は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票40を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問紙調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票40には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。児童生徒質問紙の回答状況はふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面ではありますが、学力の伸びの状況が思わしくない児童生徒については、児童生徒質問紙の数値が低い項目について授業や学級で改善を働きかけることにより、学力を伸ばせる可能性があります。

なお、令和3年度調査における帳票40は、令和2年度調査が中止になったため学力の伸びや質問紙調査項目の数値の変化が表示されません。そのため、小学校6年生以上で平成31年度調査との比較ができる「帳票40改」を各学校に送付しています。

40改 学校用(令和3年度 中2)

令和3年度ふくしま学力調査

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

<H31⇒R3の学力の伸び・質問紙調査項目の変化を算出>

算数・数学の学力のレベルが平成31年度調査から4上がっている。

学習方略のうち、努力調整方略、次いで柔軟的方略の数値が特に上がっている。質問紙調査の回答状況を参考に児童生徒のよい面を認め、自信を持たせたり、意欲を高めたりすることで、さらに学力を伸ばすことにつなげていく。

| 算数・数学 | | H31(R1)→R3(変化量) | | | | | | | | | | |
|-------|--------------|-----------------|-----------------|-------|----------|------|----------|-------|--------|-----|-------|-------|
| R3レベル | 一昨年度からの学力の伸び | H31レベル | 主体的・対話的で深い学びの実施 | 学習方略 | | | | | 非認知能力 | | | |
| | | | | 柔軟的方略 | プランニング方略 | 作業方略 | 人的リソース方略 | 認知的方略 | 努力調整方略 | 自制心 | 自己効力感 | やりぬく力 |
| 8-C | | | -0.0 | -0.0 | -0.3 | -0.0 | -0.2 | -0.0 | -0.4 | - | - | -0.1 |
| 7-A | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 8-C | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 8-B | 0 | 8-B | -0.1 | -1.5 | -1.0 | 0.5 | 0.5 | 0.8 | 0.3 | - | - | 1.1 |
| 9-A | 4 | 8-B | 0.7 | 1.5 | -0.3 | 1.3 | 0.3 | 0.8 | 2.3 | - | - | -0.7 |
| 7-A | 3 | 6-A | -1.1 | -0.5 | -1.5 | -1.3 | -0.3 | -0.8 | - | - | - | -1.3 |
| 6-A | -2 | 7-B | 1.3 | 0.3 | -1.0 | -0.3 | 0.8 | -1.3 | 1.3 | - | - | -0.3 |
| 9-C | 2 | 8-B | 1.5 | 1.8 | 1.8 | 1.0 | 2.8 | 2.3 | 1.0 | - | - | -0.6 |
| 6-B | 4 | 5-C | -0.5 | -1.3 | -1.0 | - | 0.5 | 0.8 | -0.5 | - | - | 0.3 |

算数・数学の学力のレベルが平成31年度調査から2下がっている。

学習方略のうち、プランニング方略と認知的方略の数値が特に下がっている。学習を進めるうえで課題となっている可能性があるため、質問紙調査の回答状況を参考に改善を働きかける。